ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E112M001	家庭科指導法(中等) (Pedagogy of Home Economics(Junior High School)))		対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
必修	2	2	教育学部 ≪令和２年度以降入学生用≫		火5	日本語		単独

担当教員	氏名　財津　庸子 E-mail　yzaitsu@oita-u.ac.jp　内線　7601
授業の概要	中学校家庭科の目標や内容構成、家庭科の特徴など全体像を理解し、また、教材研究の方法と学習指導構想の具体的な技術を習得する。中高の関連性をふまえ高校家庭科の授業を構想できるようにする。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	家庭科の目標や内容構成、家庭科の特徴など全体像を説明できる。	○						
目標2	家庭科の各領域の例示をふまえ、具体的な授業展開を構想できる。			○				
目標3	家庭科の指導技術を学び、授業を構想し指導案として表現できる。	○						
目標4								
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
	各DPへの関連度（計10）	6		4				

授業の内容	
1	家庭科の目標・内容構成・教科の独自性
2	家庭科の指導方法・言語活動の取り扱い
3	年間指導計画・観点別評価の観点
4	具体的な授業展開の分析１：Ａ　家族・家庭と子どもの成長
5	具体的な授業展開の分析２：Ｂ　食生活と自立
6	具体的な授業展開の分析３：Ｃ　衣生活・住生活と自立：衣生活分野
7	具体的な授業展開の分析４：Ｃ　衣生活・住生活と自立：住生活分野
8	具体的な授業展開の分析５：Ｄ　身近な消費生活と環境：消費生活の課題と消費者市民教育
9	具体的な授業展開の分析６：Ｄ　身近な消費生活と環境：環境に配慮した生活のくふう
10	指導技術１（中学校家庭科の授業）
11	指導技術２（高等学校家庭科の授業）
12	単元のデザイン１：単元の指導計画の作成
13	単元のデザイン２：１単位時間の本時案の作成
14	模擬授業および本時案の改善１
15	模擬授業および本時案の改善２

アクティブラーニング		
A:知識の定着・確認	○	実践例を収集・分析、教材開発、意見交換・相互評価、指導案作成、模擬授業
B:意見の表現・交換	○	
C:応用志向		
D:知識の活用・創造	○	

その他の工夫	

授業時間外学修の内容と想定時間		
	準備学修	中学校。高等学校の家庭科教科書・学習指導要領解説家庭編、テキストの講義該当箇所の予習（15h）
	事後学修	中学校･高等学校の家庭科教科書・学習指導要領解説家庭編、テキストの講義該当箇所の復習（15h） 教材製作、指導案作成、模擬授業の練習など（15h）
	想定時間合計	45

教科書	文科省　中学校学習指導要領解説　技術・家庭編　平成29年　ISBN978-4304021541 文科省　高等学校学習指導要領解説　家庭編　平成30年　ISBN978-4877304195 中学校 技術・家庭 家庭分野 開隆堂(2021)ISBN978-4304081019
参考書	伊藤葉子編著「新版　授業力UP　家庭科の授業」日本標準(2018）ISBN978-4820806462 日本家庭科教育学会編「未来の生活をつくる　家庭科で育む生活リテラシー」明治図書(2019)ISBN978-4-18062424-9,中西雪夫・小林久美・貴志倫子編著「小学校家庭科の授業をつくるー5年間を見通すため理論・実践と基礎知識」学術図書出版社(2023)ISBN978-4780610765

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート等提出物	60%	○	○	○							
	模擬授業・意見交換等	40%	○	○	○							

注意事項	
備考	※この科目は『地域創生教育科目』です。 取り扱う内容の順番が状況によって入れ替わることがある。 実習をともなう教材研究の場合、自己負担が生じることがある。
リンク	URL
担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	中学校・高等学校の家庭科教員
実務経験をいかした教育内容	中学校・高等学校の家庭科教員（財津庸子） 実際の教育現場における指導経験や専門的知識・技能が、学校教育現場の理解に基づく指導のあり方や指導案等に活かす。